

動物の利他行動

●協力関係

ある環境におけるある種の動物にとって、同じ仲間同士が協力して獲物を捕らえ仲間全員で分け与えたほうが、単独で獲物を捕らえるよりも有利(一個体当たりの獲物の獲得量が多い)な場合がある。

●子育て

同じ仲間同士で、自分子供以外の子供も育てることは、自分の子供が死に絶えてしまった。あるいは育てる親としての自分が子供を残して死んでしまった場合における代替手段として有効に働くことがある。

利他行動で最たるものは子育てである。なぜ別個体である子供の世話を焼くか？あるいは敵から子供を守るために自己犠牲的行動に出るのか？ 答えは自分の遺伝子を残すため。

解説

そこにただ乗り屋がつけ入る隙が有る

利他行動は幻想である。動物は自分のみ愛でる。動物にとって自分とは、自分の欲求にとってプラスの存在である。マイナスの存在を他者とみなす。従って時には自分の子供も他者として相争うことも有り得る。

●ケース 他者の子供を自分の子供と誤って育てる

◎全ての遺伝的関係度を数値として正確に推し量ることは不可能あるいはコストがかかりすぎる
◎遺伝工学を極めた人類あっても関係度を正確に数値化することは不可能である(遺伝的相違度を測る客観的基準は存在しない)

No
利他的行動をとる種に
遺伝的に異なる種の子供を
排除する能力がある
Yes

解説

ただ乗り屋は増える。利他的行動
を取る種が減る。
ただ乗り屋もいずれ死滅する。

No
ただ乗り屋が利他的行動を取る種に
自分の子供と思わせるほど似た子供を
紛れ込ませることができる
Yes

ただ乗り屋は死滅する。
利他的行動をとる種は生き残る。

No
ただ乗り屋は自分の子供の数を
抑制する機能を持っている
Yes

ただ乗り屋は死滅する。
利他的行動をとる種も死滅する。

ただ乗り屋は生き残る。
利他的行動をとる種も生き残る。